



「歎異抄」 第十三章

一 弥陀の本願不思議におわしませばとて、悪をおそれざるは、また、本願ほこりとして、往生かなうべからずということ。この条、本願をうたがう、善悪の宿業をこころえざるなり。

(真宗聖典六三三頁)

一番分りにくく、難しい十三章をどのように受け止めて親鸞聖人の教えを頂いていけばよいのかということは若い時からずっと問題にありました。宿業ということは大変な誤解、誤用がありまして、過去世の業の報いであると教えてきた歴史があり、政治的に作りあげられた封建的な身分差別までもすべて個人の業報であると説くこ

「歎異抄」(第二十八回)

標 暁 講述

とによって、社会的身分制度を正當化する役割を果たしてきた。このような宿業の誤解、誤用は今まで続いているので各方面から種々の批判や糾弾を受けている。病氣をしている人に向かって、「あなたの業だ」というような云い方で説教を長い間してきた歴史がある。真宗の聖教の中で宿業ということが説かれるのは十三章だけで、善導大師の著書や『唯信鈔』には宿業ということがでてきませんが、十三章のような深い主体的な自覚というものではない。親鸞聖人がお書きになった著作には宿業という言葉は出てこないものですが、これは唯円の聞き違いしているのでは、という説まで出てくるほど宿業ということについて理解が難しい。諸説紛々としてとどまることを知らないという状態です。

光照寺寺報

発行所
宗教法人光照寺

〒331-0821
さいたま市北区別所町102-2
電話：048-651-2781(代)
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://www8.ocn.ne.jp/~koshoji
発行人
池田孝郎

宿業というのはあくまで自分の自覚、我が身の自覚をあらわしている言葉であるということに承知しておかなくてはならない。元来仏教の業は仏教以前に用いられていた宿命論的な因果応報の業論ではなく、縁起の立場に立つ業観である。縁起ということはすべてのものが因縁果という道理に基づいている、という業観。諸縁によって成り立つ自己自身を縁起的存在であると自覚する。仏の主体的な自覚によってのみ、真の自由と平等とが矛盾なく我が身の上に成立することをあらわした思想語が業ということ。これを反対に捉えて運命のようにとると自由ではなく、過去の制約を受けるといふ具合に誤解される。因縁報というものに基ついて業ということが云われているのだから、そこを自覚す

れば、すべて自分の意思の自由でやったことのようにだけれども、意思の自由というものは徹底したものでないということが分ると頭が下がって、今までの自分の考え方から解放される。また人間みな業によって動いているのだと知らしていただくところに、平等の救いというものを感じることができ。そういう自由と平等が共に成り立つ思想的な根拠を与える言葉が業なのである。
(当寺)法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照 次回へ続く



1月1日修正会参詣の方々

旅行記

春季彼岸会法要 三月十日(日) 二時三十分 厳修

詳細は三頁
詳細は九頁



昨年の光照寺旅行で宗祖親鸞聖人のゆかりの地、茨城県大洗を尋ねた。大洗磯前神社の前の海岸に面した「魚来庵」という宿に泊った。その宿の前の岩礁に立つ鳥居は太平洋より昇る日の出の場所として、茨城県の観光ポスターによく使われる場所とのことであった。

詠まれた場所は違っても次の様な歌を聖人は製作されている。「和歌の浦曲のかたを浪の、寄せかけく帰らんと同じ」と。それと相い通じる感慨で無量でありました。私も日の出をカメラに収め、現像してあらためて一葉の写真を眺め、ハッとして思い当たる言葉を思い出したのです。それは住岡夜晃先生の「庭の青石」と云うお話しです。そのストーリーは庭に小さな青石が地面より出ていた。その青石を取り出そうと掘ると、地中に深くなる程大きくなり、ついには地球全体となった、というものです。それに符号する様にこの太平洋の彼方の海の水平線上に昇る太陽の写真は「青石の喩え」を彷彿させてくれました。

小学生でも知っている地球は丸い事実。しかし、知識と、事実と、実感と、感動と、共感の相違の発見とでもいまいましようか、実に感動と共感の世界を一つにした存在の体感でありました。

私という存在の前に展開する広い世界。しかし、それを超えて、見えない世界の大きな広い存在を感じ取った時の驚きは、既にある世界があると感じた、発見というべき驚きの世界の感動です。

このことを仏法では「顕彰隱密の理」と表現していると、仮りに受け止めても過言ではないでしょう。

私達は日常、目に触れる世界を世界と思い生活している実状があるとと思います。しかし、見えない大きな世界と繋がりが一体となり、一如となっていることを感じ取って全身で領く時、大いなるものに頭が下がるでしょう。そこに仰ぎみる世界と、それまで気づかなかった自己に慚愧の念と感謝の念が発起するでしょう。この驚きの感情が宗教感情といえるものです。

曾我量深師はお念仏の宗教感情を「純粹感情」と言い現わされておられます。又、仏語に「即多、多即一」とも言い現わし、小さな一つの事は多くの一切を包含していると示しています。

南無阿弥陀仏

真の依り処

縁、絆について考えてみたいと思います。仏教では縁のことを、原因をたすけて結果を生じさせる作用と捉え、絆は断つことのびない恩愛、離れがたい情実という。無縁社会といわれる昨今、一人暮らしの孤独な人がこれから多くなるばかりです。縁、絆が薄くこれを取りもどすには一人一人、又、社会全体で考えなければならぬと思います。仏陀の教えは苦からの解放を説かれたものです。苦の自覚をもつ人にこそ響き、因縁より生ずる我が身、どのような状況に置かれても自分にはかけがえない人生なのである。又、縁しだいでは人ほどのようなことも行ってしまう愚者です。アアア南無阿弥陀仏お救い下さい、おたすけ下さいとお念仏せずにはいられません。人と人との関係を深く絆で結び、恩愛を忘れず離れずに情を交わらせてゆきたいものです。合掌。岡田ノリ子

鈴の音

世の中の物差しが絶対ではないということを知っている大人がいることが、ものすごく大切なことなのです。

一案 真

(二の世を生きる念仏の教え)



願船寺にて

光照寺、旅行記

平成二十一年十月三日〜四日 「光照寺旅行 願船寺と大洗周辺の旅（茨城県）」参加者の方々の感想をお寄せいただきました。幹事様はじめ参加者の皆様にこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

（編集長 副住職）

願船寺と大洗周辺の旅

川 澄 英 明

私が初めて大洗を訪ねたのは、平成八年五月初めでした。テレビで、「大洗の潮干狩りではヒラガイが最盛期を迎えました。ハマグリ大の平たい貝で味は最高、年々漁獲量が激減しています。」という報道がきっかけでした。板橋の行き付けのスナックの飲み仲間五人で出かけました。

大洗の海岸では、膝まで海水に浸かり足で砂をまさぐり、ヒラガイを見つめます。二時間ほど試みましたが、結局四個しか見つかりませんでした。焼いて食べましたが、とても旨い貝でした。

そのあと、大洗の海岸通りを北へ歩き、磯前（いそさき）



神社にお参りして、正面の階段を下りたところにレストラン・ホテル「魚来庵」を見つけました。太平洋の見渡せる明るいレストランで、海鮮定食は忘れられない美味しさでした。ホテルなら、次は泊まりにこなくてはと、その場で五人の宿泊予約をしました。この年は「海の日」が国民の祝日に制定された最初の年で、七月十九日だったと記憶しています。

私は気に入ると何度も同じ宿を訪ねる習性があり、私の参加するいくつかのグループ



伊能忠敬記念館にて

に紹介しては、都合十数回大洗旅行を楽しんでいます。今回、旅行の幹事長を指名され、勝手知ったる大洗なら皆様をうまくご案内できるのではとお引き受けしました。早朝の出発でしたが、予定通り皆さんの笑顔が光照寺の駐車場に集結、最初の目的地、佐原へ向いました。この日は、伊能忠敬記念館とご住職お勧めの願船寺だけ。遠い道のりでしたが、訪問先では、ゆつくりした時間が過ごせて良かったと思います。

遙か南に、大きな台風が近づきつつあり、伊能忠敬記念館では、土砂降りの雨に遭遇しましたが、その後は雨も上がりました。

二日目は快晴、「魚来庵」は部屋窓の真下へ太平洋の荒波が打ち寄せ、跳ね上がる飛沫に朝日が煌めいて、海なし県に住む我々には、感動の光景を楽しむことが出来ました。

アクアワールド（水族館）で、いるかショーを見てから、那珂湊お魚市場で新鮮な魚介類のお買い物、午後は笠間焼の奥田製陶所を見てから笠間稲荷（三大稲荷・佐賀の祐徳稲荷、京都の伏見稲荷）をお参りして帰途に付きました。

お昼は、初日の佐原では有名な山田屋の特上の「鰻重」、那珂湊では最高メニュー「海鮮御膳」を戴きましたが、これはご住職のご好意で選ばせていただきました。参加の皆さんは十分堪能されたことと思います。

是非、次回の光照寺旅行には、多数のご参加を期待して

おります。

印象 茨城旅行

淡海 雅子

自然の醸し出す様々な現象、時の流れに感動し、日常と違った空間で同じ法を聞く朋との楽しい旅であった。今も願船寺の本堂の階段に腰かけ山門を通して眺めた風景が脳裏に焼け付いている。刈り取られた稲田が広がる里山の風景、一瞬親鸞聖人がそのあぜ道を歩いていかれたように見え、お心をどこかで感じ取れないかと五感を敬った。聖



夜の宴会も盛り上がりしました。

人お手植えといわれる大銀杏は黄金に色づき、実った銀杏が風で落ちこぼれていた。願船寺が存続され今日まで潜り抜けてきた数々の歴史も興味深いものだった。また、岩に碎ける波音を聞きながら見上げた中秋の名月、翌朝は日の出を見逃すまいと起き上がったことも思い出される。バスの中の皆さんの笑顔も最高だった。

朝日の素晴らしさ

山田 邦興

今回の旅の宿は、大洗の「魚来庵」である。窓の外は砂浜だ。波打ち際から太平洋へと続く。

お浄土は西にあるという。私は日本海側に生まれ育ち、夕日には格別の思いがある。朝日の昇るのを見るのは稀だ。羽田空港滑走路増設工事に従事した際、東京湾から昇る朝日を見る事があった。目がシヨボシヨボとして夜勤が漸く終わった安堵感で一杯だった。残念ながらロマンティックな情緒に浸っている余裕



魚来庵の窓からの日の出

はない。
 今回、夜が明ける前に起き出して朝日の昇るのを待った。薄闇の中に太陽が顔を出さず荘厳さ。まるで日本画を見ようだ。数分後にパッと黄金の光が空一杯に広がった時の神々しさ。全身、感動の塊となる。東にもお浄土があるので？と感じた瞬間だ。脳裏・険の奥に残すだけでは「モッタイナイ！」。急いでカメラのシャッターを切った。いつの日か油絵とする為の手助けになってくれる写真が欲しくて…。

感謝
 岡田 ノリ子
 今年の光照寺の旅は、大洗周辺の旅でした。十月三日(土)朝八時、元氣よく出発しました。幹事役員は今回もすばらしい企画をして頂きました。午後三時半頃到着しました。願船寺、私は何より楽しみにして行きました。二十四輩の十四番、寺を建立された当時は天台宗とのこと。ところが、寺の庭の梅の木の下に十六歳の聖徳太子が現れ、住職に稲田の親鸞聖人の



水族館のイルカショー

弟子になるようにと現れたという不思議なエピソードがあります。この話も阿弥陀様のおはからいでしよう。法名は定信房と授けられたそうです。現在の寺も格式高く境内にある銀杏の木も聖人のお手植えと聞きました。廃佛毀釈の時代には身体を張って水戸藩に抵抗し、寺を護ったという歴史があります。護持に感動。
 旅・御仏に守せられて
 河野 日出子

お寺さんの旅行と言いますと、親鸞聖人に縁の寺々を巡り説法を聞き念仏を称える、さぞ堅苦しいものとの先入観から初め躊躇しましたが、旅のパンフレットを拝見しその心配も消えました。更に当日御参加の皆様にお会いした時には初めて参加した私共夫婦を優しく迎えて頂き心から安堵しました。
 十月三日朝八時、茨城県大洗に向け出発。車中では住職、副住職、幹事の方々のお話に耳を傾け、暫くして最初の目



的地、伊能忠敬記念館に到着。そして願船寺へと。尊厳な如来像の御前、輪袈裟を掛け慎重な面持ちで、御住職の心温まる御講話を拝聴し身の引き締まる思いを致しました。秋色豊かな銀杏の道、一路魚来庵へ、折しも今宵は仲秋の名月、雲隠れしていた月がやがて煌々と輝き出したのです。思わず合掌。御仏のなされるものとはと胸の高なりを覚えたものです。翌朝は更なる感動！なんと水平線の彼方から御来迎です。この光景は実に神秘的で神しく荘厳なも

のでした。清々しいこの朝の情景は、私の脳裏にずっと焼き付くことでしょう。魚来庵を後に最終目的地、笠間稲荷に参詣、お土産を買い帰路に着きました。旅の疲れが出たのでしょうか。車中に静かな寝息も聞こえ、好天に恵まれた二日間の旅も無事終えることが出来ました。これこそ旅を通して御仏の下に心を寄せ合い、お互い異なる人生を歩みながらも思いやり意志の疎通が出来、心がひとつになれたからではと思います。この旅行に両親で参加出来たこと



笠間稲荷にて

は、亡き子の供養にもなったものと信じております。終りに臨み、御仏のお導きの下、色々と御尽力頂きました方々に深くお礼申し上げます。有難うございました。

寄せる波 もしや仏(亡き子)の遣いなら 無事と伝えてまた返す波
(大洗海岸にて)

願船寺の旅

小刀称 栄

皆様、明けましておめでとうございます。

此の度、「やすらぎ」に光照寺の旅行の感想文をと原稿依頼があり何を書いたら良いか迷いました。

私のたびは九歳の頃が初めてだと思えます。それは、第二次世界大戦後、樺太から函館に引揚げの旅でした。母と六人兄弟の大変辛い旅でした。父は抑留されて二年後に帰りました。私の中では「旅」は辛いもの「旅行」は楽しいものと染みついております。十年程前、京都大本山東本願

寺「帰敬式」に参加し、亡き父と三人で法名を頂き大変貴重な体験をさせて頂きました。

また、平成二十一年度の旅行は茨城方面で光照寺の旅行では初めてホテルに泊まり、楽しい一夜を過ごしました。その旅行の中で、「願船寺」というお寺に寄り住職さんより寺の歴史のお話と法話を頂きました。

『願船寺の開基は額田の阿弥陀寺同じ定信房である。当院を守る境内に清浄な泉があったことから当初は「願泉寺」



昼食のうなぎおいしかったです。



であったが徳川光圀が親鸞聖人の業績に感じ入り「難度の苦海には四十八の願船あり」と述べて一字を改めさせた。境内には聖人ゆかりの大銀杏があり、開基定信房木造などの寺宝を蔵している。』

本堂の仏像を拝観させて頂きました。楽しく、貴重な旅行でした。

護持会会員の皆様、光照寺にご縁の皆様、平成二十二年度の旅行には一人でも多くの方の参加をお待ちしております。

合掌



大洗の日の出

佐々木 玄 吾

旅行第二日目の朝、旅館の部屋の窓から日の出を見た。広い海の向うから黄金の太陽が上ってきた。人々は多く浜に出て太陽に向かってシャッターを切っている。歓声を上げて喜んでいいる様子が伝わってくる。

ふと見ると岩の上に赤い鳥居が立っている。太陽と鳥居の延長線上の裏山には磯前神社が祀られている。この地の人々は旅の我々と同様に日の出をこの上なく喜んだのだと



私の一泊旅行

佐々木 みつ

思った。暗黒の夜があけて太陽が上るこんな嬉しいことはなかったであろう。我等の家庭の中にも太陽が上らないと生死の苦海である。太陽が上ると本願海となる。太陽と念仏の声である。念仏のない家庭は太陽の出ない海ではなかるうか。

楽しみの光照寺旅行の通知に胸おどらせて参加させて頂きました。バスの中では住職様の朝の挨拶、佐々木玄吾先

生のおことばがあり少し緊張していましたが今日の旅行を皆様と楽しみたいと思いました。幹事様方の細々の配慮にいつもながら頭が下る思いです。

さて車中では坊守様の替え歌による「鳩ポッポ」の合唱、副住職の「かえるのうた」は「なむあみだぶつ」であり、つい手を合せて歌っていました。

又クイズもあり伊能忠敬についての知識をつけて入館して五十才から勉強して測量し日本全図が出来るまでの努力に驚きました。

次に昼食に向いましたが大変な雨に見舞われ雨女である私は傘を忘れ濡れましたが、食事に「うなぎ」私は「刺身定食」に舌鼓を打ちホッと一息です。願船寺では住職様のお話、心遣いのお茶お餅のおいしさ、門前の親鸞上人のお手植えの銀杏の実が地面に落ち、飛んで歩いたおもしろさ、後に食べられたことが長命につながるので、ホテルで朝日が水平線に昇る神秘的な様

子に感動です。幸せに旅行出来たことに感謝の心でいっぱいです。

合掌

秋の旅行記

三 輪 民 子

光照寺を出発する時は、何とかもっていた天気、香取市佐原に着くと、あいにくの雨になりバスの駐車場から伊能忠敬記念館までの佐原の町は、川越と同じように小江戸と呼ばれ、江戸、明治、大正、昭和期の町屋、土蔵、レンガ造りなどの情緒漂う建物が残



おみやげたくさん買いました。



っており、関東で初めて国の「重要伝統的建造物保存地区」に選定されているところで、傘をさして情緒をたっぷり味わい、記念館では、完成した「大日本沿海輿地全図」や測量道具等に感動しました。願船寺では御住職の温かいおもてなしと、お寺の由来と貴重な掛軸を拝見し、親鸞聖人お手植えの銀杏は丸い可愛い実を沢山おとしていました。

の出を見ました。大満足の魚来庵から近い、アクアワールドでいろいろなサメにドキドキし、マンボウにいやされ、イルカとアシカショーを楽しめ、お魚市場で買い物をして、おいしい昼食をすませて、笠間稲荷におまいりし、奥田製陶所で焼き物を楽しみ、お土産を買って、夜、七時過ぎに無事、光照寺に到着しました。素晴らしい旅の企画を下さった幹事さん、お寺の皆さんに心から、お礼申し上げます。

ありがとうございます。いつも楽しい思い出と寺での研修等、少しお勉強もして有意義な時間になります。是非こんどは皆さんも御参加下さい。

光を浴びて思うこと
坊守 池 田 邦 子

十月三日光照寺を後に一路茨城の最初の見学地伊能忠敬記念館へと、夕方願船寺の大銀杏をあおぎ足元にあるギンナンを拾う。御住職の御苦労を伺い綿々と伝わって来た真

宗の歴史の重みを感じた。翌午前四時二十五分、無明の暗を破り太陽のぞいた瞬間、あたり一面しらじらと光明に包まれた魚来庵より望む海、キラキラと波間が揺れる様、眩しい位の感動、思わず手が合わさったのを記憶している。住職と光を浴びながら浜辺の散歩、玄吾先生が「文さんも一緒に連れてくれば良かった」と、私の内に起こるうず潮、荒波をどう越えてゆけるか。答えはわかっているがどう導き出し、それが他力の回向としてわかせて頂く、これからの私の課題として歩みたい。

合掌

茨城からのぬくもり
副住職 池 田 孝三郎

茨城の地へ何度か訪れているが、毎度、感動と生命に満ち溢れる力をいただく。伊能忠敬記念館、昼食のうなぎ、願船寺さんの大銀杏とこぼれ落ちていくギンナン、藤井住職さんへ受け継がれた願船寺さんの魂と真宗の教え、太平洋を独り占めするかのような



宿泊所である魚来庵からの日の出、すべてが感動と躍動に包まれた旅行であった。親鸞聖人が二十年滞在され、『教行信証』を草稿されたという茨城は自然と調和し、大地が育む温もりと生命力に帯びている。都会の息苦しさに嫌気がさしたら訪れたいそんな気持ちを抱かせてくれる。旅行の参加者に親鸞聖人もおられた?という錯覚も有るとか無いか。光照寺旅行の醍醐味を参加して味わいましょう。

合掌



先日、タモリさんが出演するテレビ番組で葬儀に関する内容を放映していましたので関心を持って見入っていました。内容は身近な方が亡くなるとご遺族がしなければならぬことを二五項目に分けて分かり易い構成で番組が進みました。

ご遺族は悲しみに浸る間もなぐ式の段取りや、死亡に関する諸手続きをしなければならぬのですが、二五番目に「故人を想い続けること。」というのがとても印象的でした。

確かにせざるを得ない様々な事項はあるとしても、二五番目のことはとても大切だと感じたのです。故人を想い続けることがなかったら、葬儀も義理的にこなすということになり、心を込めた弔いとならない。法事においてと同じで、故人を想う気持ちが法事を成り立たせています。

葬儀、法事というのは悲しみを通して有限な身の事実を受け止め、そして、故人だけのことでなく、一人一人の存在が有限であることを確認させていたただく場です。それは同時に無限の世界へ求めてやまない大切な機会であり、教えとなります。故人は何も語りません。しかし、身を通して生者に語っています。「あなたは有限ないのちをどのよ

うに生きているのか」、「空しく過ごしていないか」その問いかけを聞かしていただくことが、「想い続けること」にほかならないのです。いやむしろ、生者は故人を忘れ、故人より「目覚めて生きよ」と想われているのではないのでしょうか。

「この苦しみによって得られるものは、次第に我々の精神にとって本當の宝となる」
(タゴール。インド詩人)

亡き人を偲びつつご一緒にお念仏しましょう。

副住職 (釈徹照)



修正会御尊前に向い一同合掌

春季 彼岸会法要

- ・3月21日(日) 春分の日
 - ・午後1時30分 ~3時30分まで (1時受付)
 - ・光照寺本堂にて
 - ・勤行・法話
- ※準備の都合上、出席人数をご連絡下さい。預骨されている方は率先してお参り下さい。ご参詣をお待ちしております。

彼岸参り

- ・3月18日(木) ~24日(水)の期間 (但し21日は除く)
- ※ご希望の日にちをお知らせ下さい。時間につきましてはこちらで調整させていただきます。ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。

ひとくち 歎異抄

羅漢：弥陀の本願はだれのためか。
「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり。」後序



阿弥陀様の本願は私一人を見捨てず、必ず救おうとお誓い下さっている。
川越喜多院の五百羅漢



寺務所より

●法要のご案内

●春季彼岸会法要

三月二十一日(日)、午後一時二十分より厳修。

●光照寺護持会

会員の方は護持会費の納入をお願い致します。又、随時新会員受付中。別紙案内をご覧ください。

●光照寺旅行 予告

本年、五月二十九日～三十一日、沖繩に行きます。ご案内は別途します。ご予約ください。

●聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会

毎月開催。午後一時半～四時半まで。講師は樗晔先生。和讃を学んでいます。日程は寺にお尋ね下さい。

●大経の会

二月二十七日、三月二十八日、四月十二日、五月二十四日、午前十時～午後三時まで。細川巖著正信偈讃仰(四)を学んでいます。

●我聞の会

二月九日、三月四日、四月二日、五月十二日、午後二時～四時まで。真宗の簡要を学んでいます。講師は住職。

●微風学舎

毎月開催。午後七時～九時まで。講師は副住職。「顕浄土」の教

を学んでいます。日程は寺にお尋ね下さい。

●さいたま親鸞講座

二月十三日、四月十日、六月十九日、午後二時～四時まで。会場は大宮川鍋ビル。

●新講座「親鸞聖人に人生を学ぶ講座」全六回

二月二十日、四月二十四日。会場は一心寺(浦和) 詳細は当寺にご連絡ください。

俳句・川柳

吉澤 光昭

餅花の枝しなりけり居間の春
孫の風邪爺より一つメロンかな

西木 順子

ペランダに投釣りの竿ハマチ食ぶ
母子らしアマミクロウサギの糞は
パイヤの影くるくると星増ゆる

花岡 要

つややかにかたまりて熟れし青木の実
葉牡丹に師走の日ざし澄みにけり
くさめしてつきのことばを忘れけり

釈 義深

嵐過ぐ空澄み渡り光見る
日溜りが肌温めて人集う
賑わいて念仏の声沸き出でる



赤秀 品枝

散会后仏前にはいよりて手を合わ

す一才の孫は愛らしきかな
皆さんにかこまれてするパイパイ
をナムナムのしぐさ得意気なり

河野日出子

「法然と親鸞」御仏の教えひたすら
念仏称えむと説かれし御影まこと
尊き(観劇に寄せて)

君(亡き子)のこと忘ることなき
雨晴れ曇り仏の道は厳しかり精進
されよ祈ります

月見えては亡き子を想い風吹けば
面影揺らぐああ君は何を語るや母
の枕辺

雪よりも真白き花の山茶花の月に
咲けるはいと淋しかり

身の丈を知るや知らずや一輪の健
気ゆかしき花撫子の

小手毬の少し厚目の雪化粧耐えて
優しき春を待ちおり

佐藤セツ子

逝きし子の創りおきたる瑠璃色の
花壺に生けし白萩たわわ

昏るるまで縄文の土器を作りしと
帰り来し子に土の匂える

大宮の街並み遠く浮きて見ゆ病棟
より見る秋のどかなり

篠原 潤子

ありがたや年賀のバイト三年目ヒロ
ミ先輩コツを教える

お日様に前園を向けて日光浴笑顔に
なればこれでイイのだ

一一七三年ご誕生の親鸞さまかなら
ず助かる道を教える

有難い御阿弥陀さまに導かれ縁の
不思議シミジミ感ずる



花岡 要 画

梵鐘

私の先生であり、格好の論争
相手であった叔父が浄土に還ら
れ一年が経つ。死の直前、いつ
もの書齋で社会、教育と持論を
述べあい最後が宗教であった。
叔父は生死をさ迷った後に日常
の生活に戻れた喜びを語り、死
が自分の問題となるまでは客観
的にしか捉えていなかったと言
った。私の真宗に出会った感動
を自分のものとして聴けていな
かったと言ひ、既に時遅く大切
なことを話せなかった事を残念
がった。最後のメッセージは
「ほんとう」に出会ってくれで
あった。「ほんとう」というこ
とがどこにあるのか。間違えて
はならない。真実は私の上には
ない。私の上にあるのは真実を
も自分のものとしてしまう邪見
驕慢な不実の自己のみである。
「ほんとう」に触れることが私
の課題である。こんな話をもつ
としたかった。続きは今度出会
った時に...

合掌
釈尼雅亮